

## 1. 中間報告書の作成までの経過

- ・平成 16 年 7 月議会で議員提案により「あったか高知観光条例」が成立
- ・平成 17 年 3 月 高知県観光ビジョンを策定（計画期間 H17 年度～21 年度）  
目標：県外観光入込客数 平成 16 年 308 万人 平成 21 年 330 万人
- ・観光ビジョンの計画期間の中間年度（平成 19 年度）と最終年度（平成 21 年度）に、取組状況・成果について、県民への公表と議会への報告が義務付けられています。
- ・中間報告の目的は、これまでの 2 年間の観光振興に関する取組状況をチェックし、課題等を整理することで、計画期間の後半の取組みに反映させることです。
- ・今回の中間報告書の作成にあたっては、県や市町村、観光関係団体等の取組状況について整理を行った後、平成 16 年度に観光ビジョンの策定に携わった委員の方々によるフォローアップ会議を開催し、各委員からの意見を聴取してとりまとめを行っています。

## 2. 中間報告書の構成

- 第 1 章 全体の要約版として整理。これまでの 2 年間の主な取組状況や今後の課題についてポイントを整理。具体例や取組みの詳細は第 2 章に記載。
  - 第 2 章 観光ビジョンに沿った具体的な取組内容と成果について整理。あわせて、今後 2 年半の取組みの方向を記載
  - 第 3 章 県内 7 ブロックごとに策定した地域ビジョンに関して、地域の主な動きと、課題・今後の取組みを整理
- 参考資料 観光条例・観光ビジョンに沿った取組み状況について、市町村からの回答に基づいて整理（主として平成 17・18 年度）

## 3. 中間報告書のポイント

本県観光の魅力向上をさせる取組みとして、地域の自然や歴史、文化等を活用した新たな観光資源の発掘や育成、食の魅力を生かした取組みなどが着実に進められています。  
地域観光資源を活用したメニューづくり（P12～13 に事例を紹介、県が実施した事業は P16～20 参照）

- ・高知東海岸 100 物語（東部地域） 漁業体験（中土佐町） 町村合併後の観光資源の活用プランの検討（いの町観光協会） 森林セラピーを核とした滞在型・交流型観光の取組み（津野町・梶原町） 大月コスモスまつり（大月町） ほか
- ・「食」の魅力を生かした取組み（P26～29）  
土佐の料理伝承人による食文化の普及・啓発（伝承人選定数 27 団体・個人）  
地元食材を生かした田舎料理を提供する施設数が増加（平成 18 年度末：農林漁家レストラン 41 店舗）  
高知の野菜ソムリエが勧める飲食店などを「野菜で元気店」として選定・PR の実施  
県内及び県外への情報発信を目的とした食に関連したイベントの開催（県内外のホテルでの高知フェアの開催など）

### スポーツ観光の推進（P21～22）

- ・プロスポーツの誘致とアマチュアスポーツの合宿の誘致

### 既存の観光資源の活用（P 24～25）

- ・「土佐二十四万石博」の開催と関連イベントの実施
- ・「土佐のおきゃく」の開催
- ・「よさこい」の活用（商店街での特別イベントの実施やスーパーよさこいでの情報発信）

### 地域の産業と連携する取組み（P 30～32）

- ・グリーンツーリズムの広がり（農林漁家体験民宿 H16 3軒 H19 38軒）
- ・土佐宇宙酒の全国展開
- ・経済産業省の「地域資源 全国展開プロジェクト」（H18・19年度 計6事業採択）  
（土佐宇宙酒全国展開事業、観光開発と特産品開発のモデル事業（土佐清水市松尾地区）ほか）

その他にも、観光ビジョンに沿った様々な課題に取り組んでいます。

### 生活環境の美化・景観保全の取組み（P 40～45）

- ・花・人・土佐であい博の開催を通じた「花」によるもてなしの仕組みづくり
- ・四万十川条例による開発制限、人と自然が共生するモデル地区の設定（四万十市黒尊地区）

### 国際観光の取組み（P 53～57）

- ・韓国・中国・台湾をターゲットとして、トップセールスの実施
- ・中国・台湾からの修学旅行の受入

### 観光情報の発信（P 53～57）

- ・大河ドラマ「功名が辻」の放送以降、観光コンベンション協会のHP「よさこいネット」のアクセス件数が増加（大河ドラマスタート前のH17.12 月間10万件 H19.8 40万件）
- ・「観光特使制度」の創設（H19.8 未現在 110名）

今後解決していかなければいけない課題への対応として、次のことに取り組んでいきます。

### 地域の観光資源の観光商品化と情報発信

- ・花・人・土佐であい博の活用（体験と食のメニューの観光商品化）
- ・旅行業の免許を取得した観光コンベンション協会による地域商品の企画造成・販売
- ・地域エージェント組織の育成（観光資源の組み合わせや地域の組織づくりによる地域コーディネート機能の確立）
- ・四国の一体的な観光など、広域観光メニューの造成と情報発信（平成20年度は瀬戸大橋開通20周年 四国観光立県推進協議会による効果的な事業展開）
- ・情報収集力の強化、効果的な情報発信（観光コンベンション協会HPよさこいネットの活用）

### 二次交通の整備（MY遊バスの検証、観光タクシー制度の検討など）

### 観光客をおもてなしの心で迎える県民運動の展開など

- ・高知県おもてなし県民会議の立ち上げ（H19.8.28 設立）、アクションプランの策定
- ・観光地・観光ルート上の美化活動の促進
- ・学校教育における学習機会を確保するために、おもてなし教材の作成を検討